



令和7年度 川島小学校 学校生活アンケート（児童） 分析報告

データから見る、児童の姿と成長への示唆

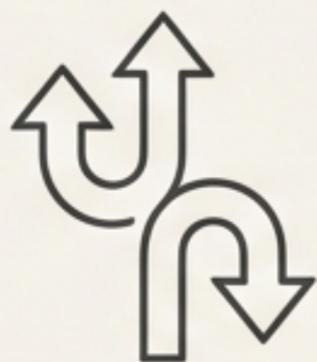
令和7年 [実施月] | 川島小学校 学校運営協議会

エグゼクティブ・サマリー：アンケート結果から見えた3つの要点



1. 高い学校満足度と良好な友人関係

全体として「学校が楽しい」「友達との協力が楽しい」といった項目で肯定的な回答が9割近くを占め、児童が学校生活の基盤となる部分に満足していることが示されました。特に低学年でその傾向が顕著です。



2. 学年進行に伴う自己肯定感・学習意欲の二極化

学年が上がるにつれて、「自分にはよいところがある」「将来の夢がある」といった自己肯定感やや目標意識に関する項目、さらに「毎日家で勉強する」といった家庭学習の習慣に課題が見られます。



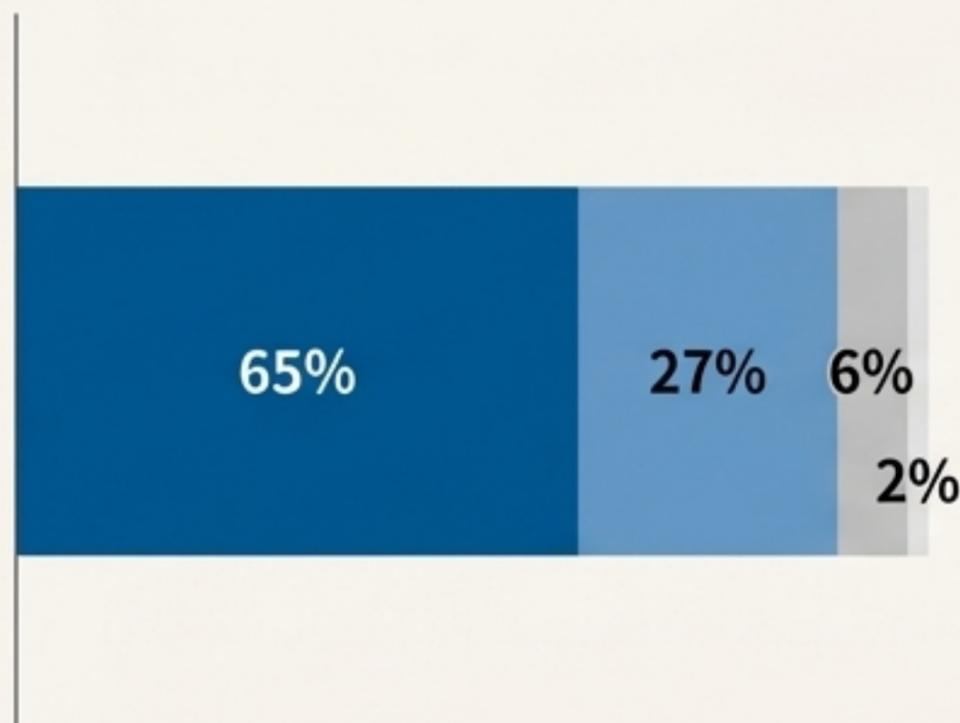
3. 基本的な生活習慣の確立という共通課題

「交通マナー」や「時間管理」「整理整頓」といった、自律の基礎となる生活習慣について、全学年で肯定的な回答の割合が他の項目に比べて低く、学校と家庭が連携して取り組むべき課題であることが浮き彫りになりました。

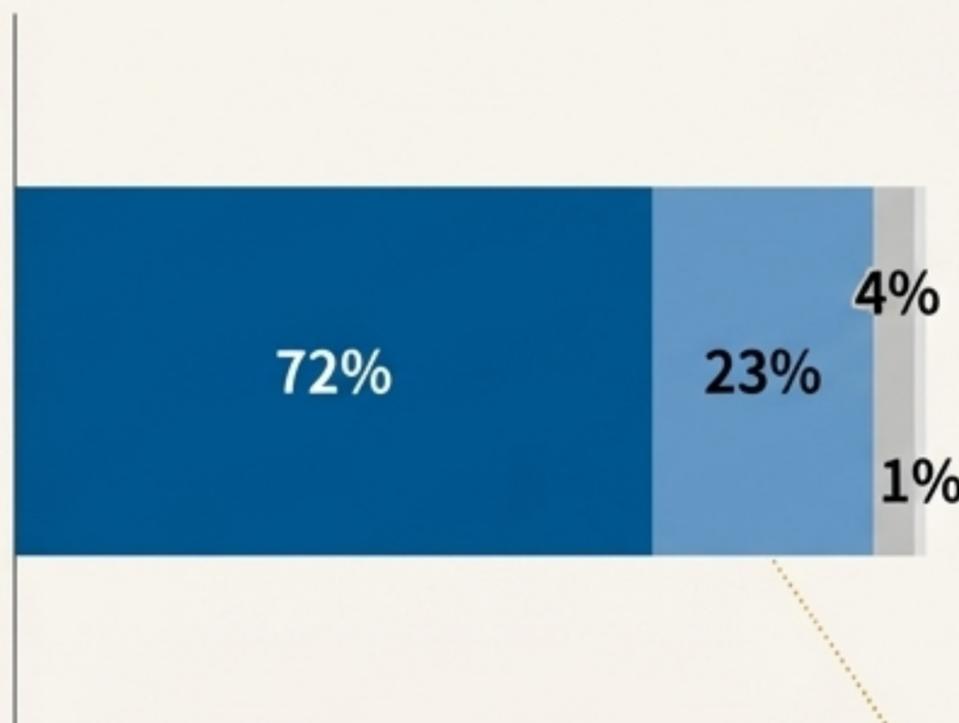
テーマ① 学校生活へのエンゲージメント：児童のポジティブな関係性が学校生活の基盤

児童は学校や友人との関係に非常に高い満足感を示しており、これが学校全体の良好な雰囲気の原因となっています。

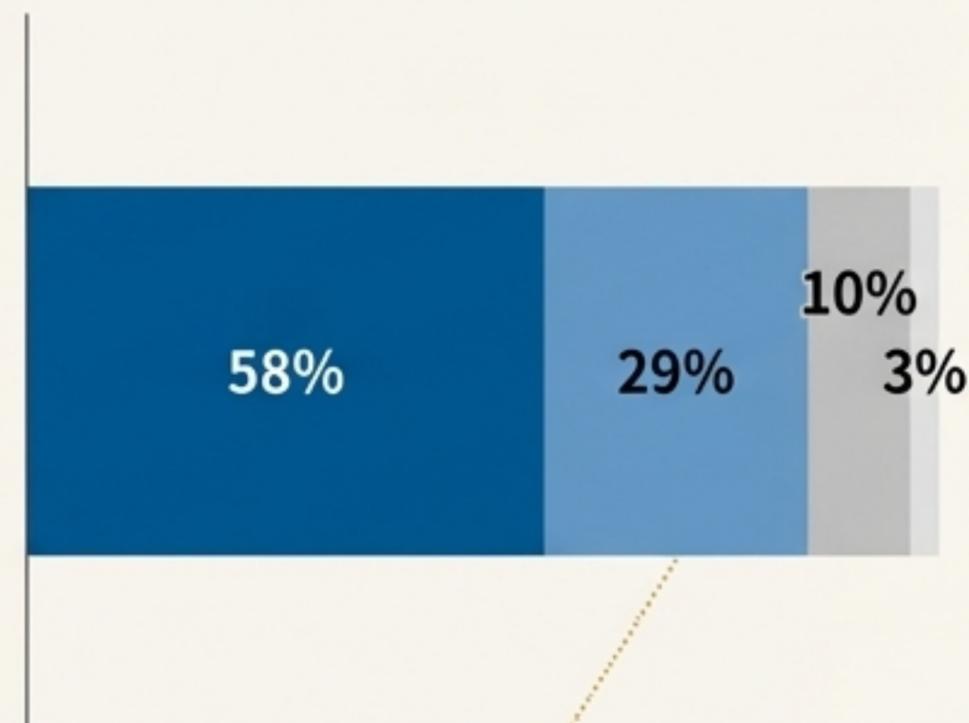
学校に行くのは楽しい



友達と協力するのは楽しい



自分にはよいところがある



肯定的な回答（「とても」+「だいたい」）はいずれの項目も87%以上。特に友人との協働に喜びを感じる児童が多い。

■ とても思う (Strongly Agree) ■ だいたい思う (Agree) ■ あまりそう思わない (Disagree) ■ そう思わない (Strongly Disagree)

詳細データ：エンゲージメント関連項目の回答内訳

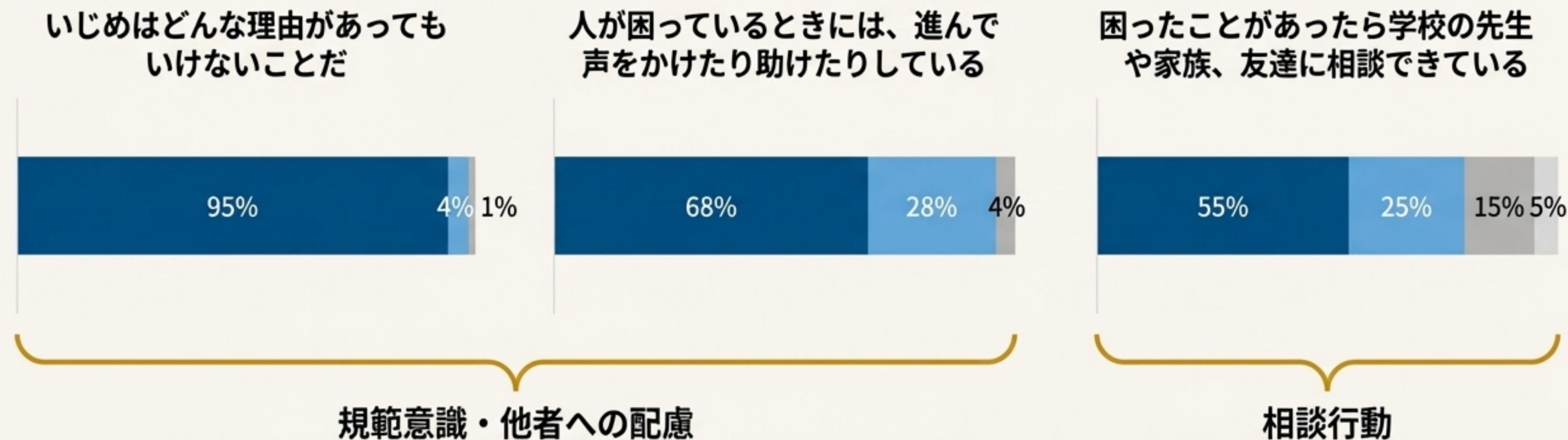
設問	とても そう思う	だいたい そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	(肯定計)
学校に行くのは 楽しい	65%	27%	6%	2%	92%
友達と協力する のは楽しい	72%	23%	4%	1%	95%
自分にはよいと ころがある	58%	29%	10%	3%	87%

分析と考察

「学校が楽しい」「友達との協力が楽しい」という2項目が90%を超える高い定率を示している。一方方で、「自分にはよいところがある」という自己肯定感に関する項目は、高い水準ながらも他の2項目よりやや低く、特に高学年での変化に注意が必要（詳細には後述）。

テーマ② 社会性と心の健やかさ：高い道德意識と「助けを求める力」の育成

いじめに対する断固とした姿勢や他者を助ける意識は非常に高い。一方で、自身が困った時に相談する行動には、さらなる支援の余地がある。



規範意識や他者への配慮（96%以上が肯定的）に比べ、「困った時に相談できる」児童の割合（80%）はやや低い。このギャップが重要な示唆を与える。

■ とても思う (Strongly Agree) ■ だいたい思う (Agree) ■ あまりそう思わない (Disagree) ■ そう思わない (Strongly Disagree)

テーマ③ 学習への姿勢：授業中の集中力と家庭学習のギャップが課題

授業への集中度やタブレット活用の有効性は高く評価されているが、それが家庭での学習習慣に必ずしも結びついていない実態が見える。

学校での学習 (In-School Learning)

学校では集中してまじめに勉強できている

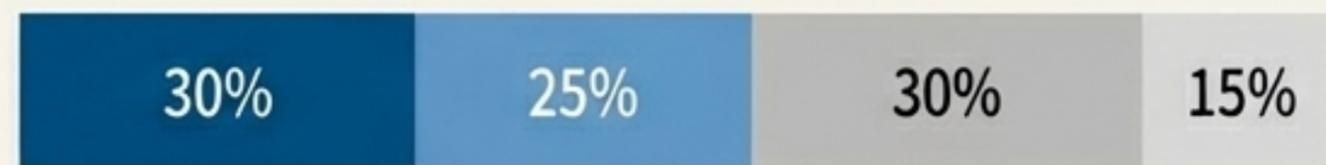


コンピュータやタブレットを使うのは勉強の役に立つ

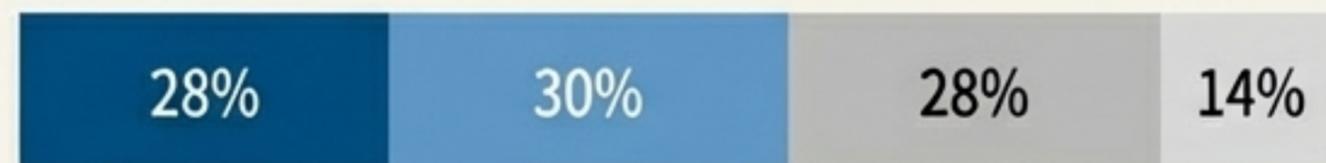


家庭・自律学習 (Home & Autonomous Learning)

毎日かかさず、家でも勉強をしている



できるだけ本や新聞を読むようにしている



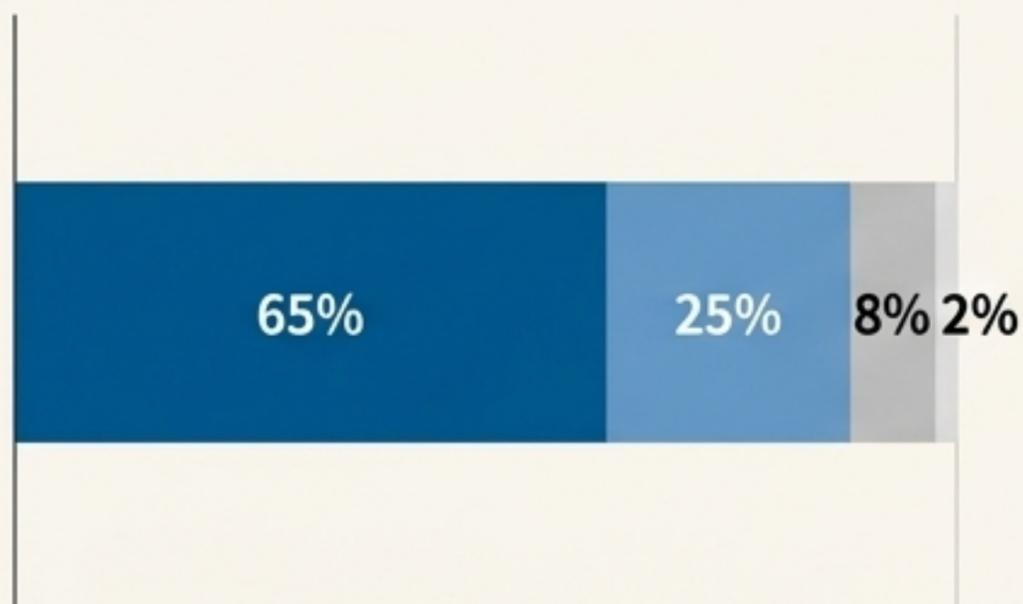
考察：学習場所による意識の差

学校での学習に対する肯定的な回答が90%を超える一方、家庭学習や読書習慣の肯定率は55%前後に留まる。この「学習の場」による意識の差をどう埋めるかが、学力向上の鍵となる。

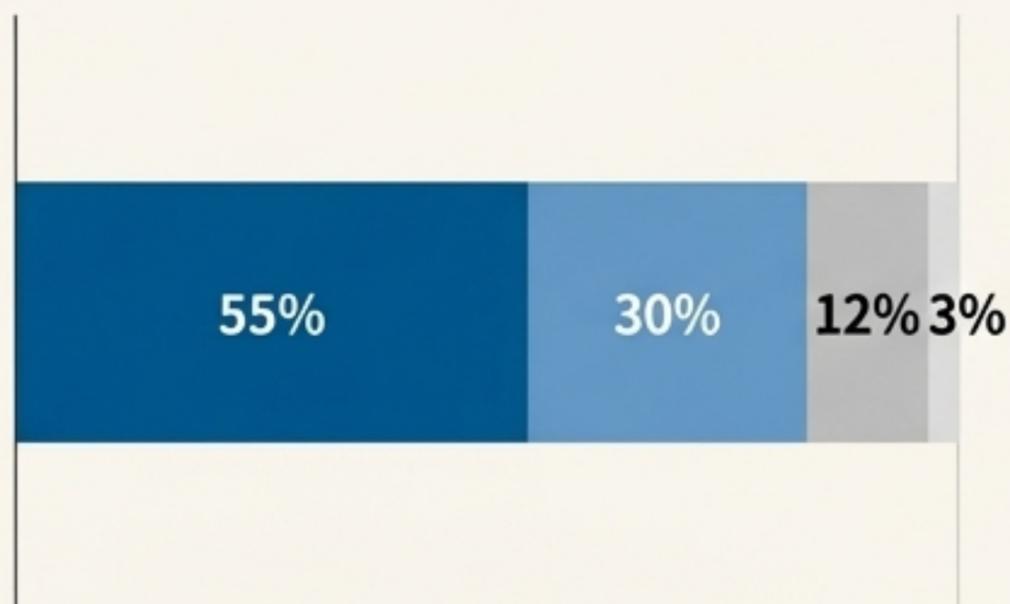
テーマ④ 基本的な生活習慣：自律性の基礎を育む、学校と家庭の連携が急務

時間厳守、交通マナー、整理整頓といった社会生活の基本となる習慣は、他の項目に比べて肯定的な回答が低く、全学年共通の重点課題である。

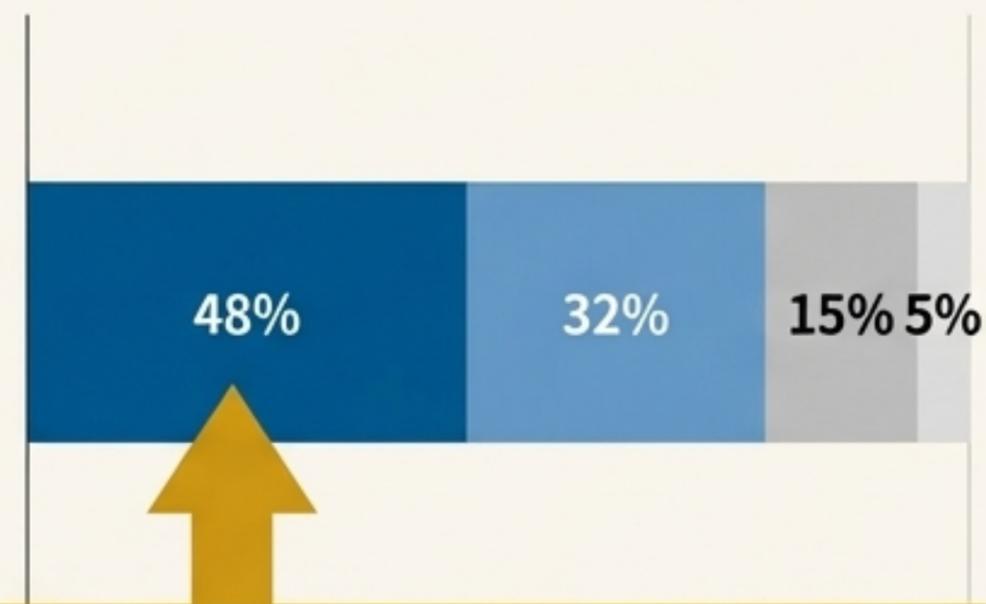
チャイムの合図や時間を守っている



交通マナーを守っている



身の回りの整頓や部屋の掃除など、自分の事は自分でできている



特に「自分の事は自分でできている」という項目で「とても思う」が5割を切り、主体的な行動習慣の育成が求められている。

■ とても思う (Strongly Agree) ■ だいたい思う (Agree) ■ あまりそう思わない (Disagree) ■ そう思わない (Strongly Disagree)

詳細データ：生活習慣・自律性関連項目の回答内訳

設問	とても そう思う	だいたい そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	(肯定計)
チャイムの合図や時間を守っている	65%	25%	8%	2%	90%
交通マナーを守っている	55%	30%	12%	3%	85%
スマホ等の家族との約束を守っている	60%	28%	9%	3%	88%
自分でやると決めたことは最後までやり遂げる	52%	35%	10%	3%	87%
身の回りの整理...自分の事は自分でできている	48%	32%	15%	5%	80%

分析と考察

全体的に肯定率は80%を超えているものの、「とてもそう思う」の割合が他のテーマに比べて低いことが特徴。特に主体性や責任感が問われる「やり遂げる力」「整理整頓」でその傾向が強い。これは単なるスキルではなく、マインドセットの課題として捉える必要がある。

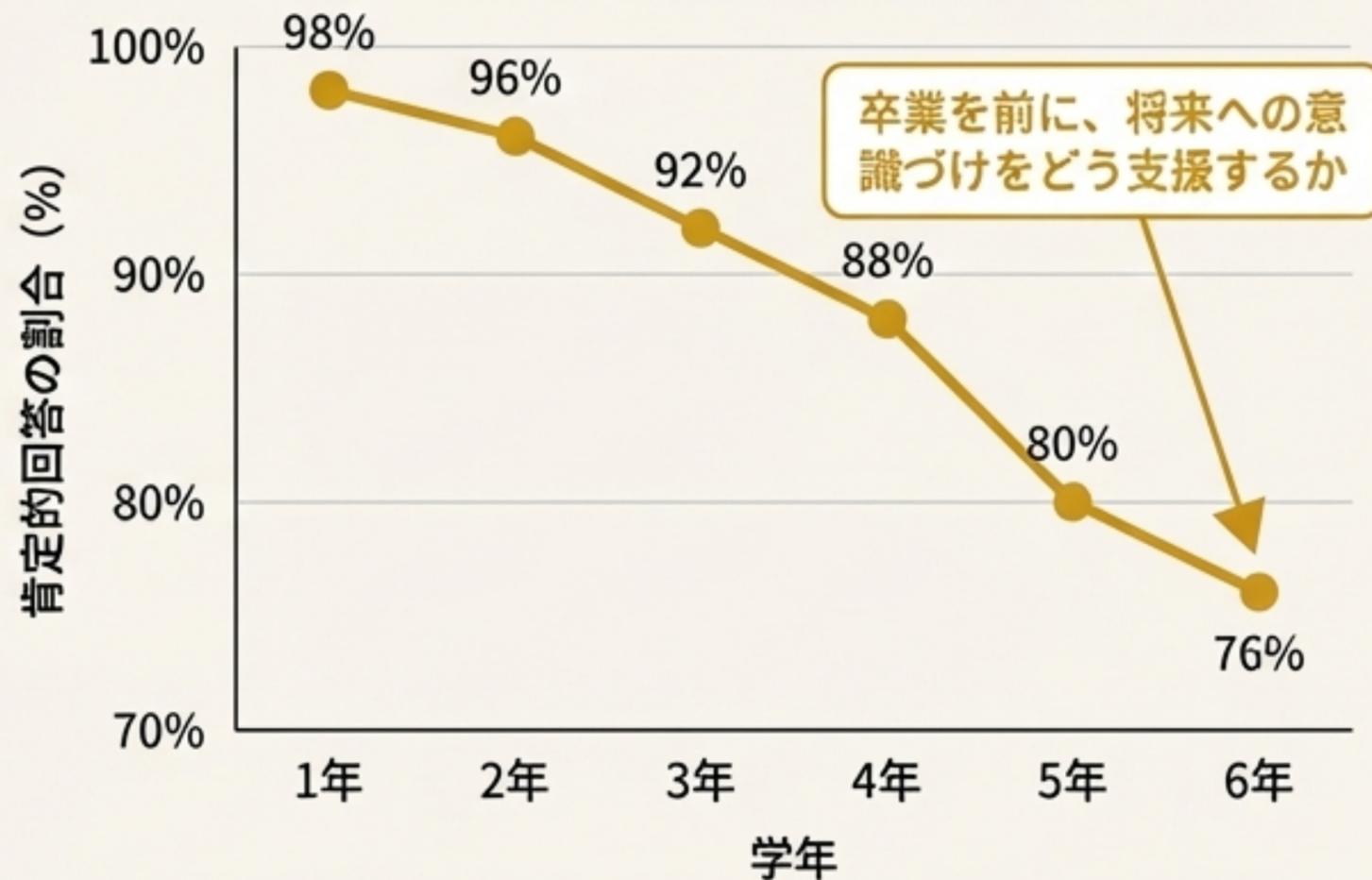
深掘り分析：学年別に見る意識の変化 — 高学年へのアプローチが鍵

多くの項目で、学年が上がるにつれて肯定的な回答率が緩やかに低下する傾向が見られる。特に自己肯定感と将来への目標意識において、その傾向は顕著である。

「自分にはよいところがある」



「将来の夢や目標を持っている」



総括：私たちの強みと今後の重点課題



良好な人間関係と学校への愛着

- 児童は学校生活と友人関係に高い満足感を持っている。
- いじめを許さない強い規範意識が共有されている。
- 他者を助け、協力することに喜びを感じる文化が根付いている。



自律性と自己肯定感の育成

- 家庭学習の習慣化と、学びの主体性をどう育むか。
- 基本的な生活習慣（時間、交通、整理）の定着。
- 特に高学年の自己肯定感と目標意識をどう支えるか。
- 「助けを求めるスキル」の育成支援。

今後のための論点：データから始める、私たちの対話

本日の分析結果を踏まえ、児童一人ひとりの健やかな成長を支えるために、私たちは何ができるでしょうか。以下の論点について、皆様と議論を深めたいと考えています。



1. 高学年の学習意欲と自己肯定感を、具体的にどのようにサポートできるか？

- キャリア教育の充実？
- 異学年交流の活性化？
- 自己肯定感を育む評価方法の導入？



2. 家庭とより効果的に連携し、基本的な生活習慣を育むための仕組みとは？

- 保護者向け啓発資料の共有？
- 学校・家庭共通の「生活習慣目標」の設定？



3. 児童が安心して「助けて」と言える環境と、相談するスキルを養うために、私たちにできることは何か？

- スクールカウンセラーの活用方法の周知？
- SOSの出し方に関する授業の実施？